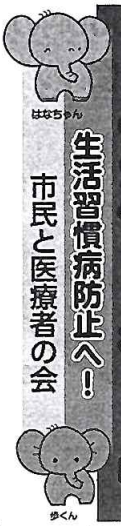
千葉日報　2019年8月2日



小象の「元気！で行こう」
生活習慣病防止へ！
市民と医療者の会

— 26 —

経口糖尿病治療薬の進歩

体重減、心臓病にも効果

いきなりクイズです。

経口糖尿病治療薬は患者さんの高血糖を改善することが主目的の薬ですが、血糖改善効果を超えて患者さんの死亡率を低下させることがある。○か×か？

現在、日本では7種類もの経口糖尿病治療薬が使われています。それぞれ薬の作用メカニズムが異なっていて、医師でもどれから最初に使ったらよいか迷うくらいです。でもこんなに糖尿病薬の種類が増えたのはつい最近の話で、1950年～90年の40年間はたった1～2種類しかなかったのです。それが最近になり、次々と新しい薬が出てきました。お薬の選択肢が増えることは糖尿病患者さんにとっては大変良いことです。

特に2009年に出たDPP－4阻害薬と、14年に出たSGLT2阻害薬は糖尿病治療を革命的に変えるお薬になりました。

DPP－4阻害薬は日本で使用され始めてちょうど10年になりますが、この間に日本で一番使用されている糖尿病薬に成長しました。現在では内服治療を受けている糖尿病患者さんの7割以上にこの薬が使用されています。

DPP－4阻害薬は消化管から出るインクレチンというホルモンの作用を高めて血糖を改善します。インクレチンは人が食事を食べると小腸から分泌されるホルモンで、すい臓に働いて血糖を下げるインスリンというホルモンを増やし、血糖を上げるグルカゴンというホルモンを抑制します。糖尿病患者さんではインクレチンの作用が弱くなり、インスリンが減ってグルカゴンが増えて高血糖になっていますから、インクレチンの作用を強めてやれば高血糖が改善します。

しかもありがたいことに、この作用は高血糖の時に強く、血糖が正常化すると弱くなりますので、DPP－4阻害薬だけを使っていれば血糖の下がりすぎによる低血糖にはほとんどなりません。安全性の高い薬なので、ご高齢の患者さんにも安心して使用できます。さらに、このお薬は日本人に多いちょっと小太りの糖尿病患者さんに効果が高いこともわかっています。

安全性・効果とも良いので、約500万人の日本人糖尿病患者さんに使用されています。このお薬の登場以来、日本の糖尿病患者さんの血糖コントロールは大きく改善しました。

SGLT2阻害薬は血液中の余分な糖を尿中に捨ててしまうことで血糖を下げるお薬です。口から食べた糖分の幾分かを尿中に捨てることになりますので、カロリーオフ効果があり、体重が平均して3㌔低下します。この作用は、肥満したメタボ型糖尿病の患者さんにはとてもありがたく、血糖を下げるばかりでなく体重を減らすことで、高血圧や脂質異常症まで改善させることができます。尿糖が増えますので多尿になったり、陰部がかゆくなったりする副作用がありますが、注意して使えば危険な薬ではありません。

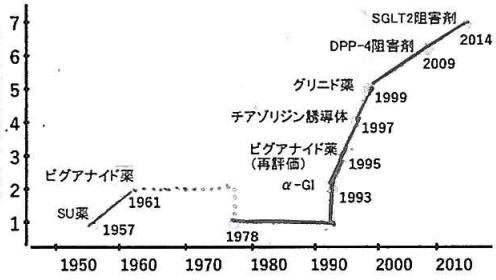
このお薬が心臓病の持病がある重症の糖尿病患者さんにも安全に使えるかどうかを確認する大規模な臨床試験が行われ、その結果が15年に学会発表されました。その結果、驚いたことにこのお薬を使った患者さんは心血管病が減少し、心不全も減少しました。それどころか死亡率もお薬を使ったグループで大きく減少したのです。この結果には、学会に参加したお医者さんたちが全員びっくりして、立ち上がって拍手喝采したそうです。過去の糖尿病薬でここまで劇的な効果を示したお薬はありませんでした。

さらにSGLT2阻害薬は、糖尿病の合併症の1つで、日本の透析導入の原因疾患の第1位である糖尿病性腎症を強く抑制することも報告されました。

医学は日々進歩しています。お医者さんも一生懸命勉強しないと時代遅れになってしまいますので、私もこれからも患者さんのために勉強したいと思います。

最初のクイズの答えは死亡率も低下させる糖尿病薬はありますので、○です。

経口糖尿病治療薬の開発年次



（小象の会理事・ほたるのセントラル内科院長　内田大学）